

て禁止した。土地立木の質入も譲渡も一切許されなかつた。若し山が他村人の手に落ちやうとする時には親類が之を請戻し、親類の力でも及ばぬ場合には村で之を阻止する。山に生れ山に住み山の本で炭を焼いて過去何百年か過して來た山人達が太古の姿其の儘のやうな山村を護らうとするのは、實に近代的な生活權の擁護とのみでは解し得ない、深い傳統の力と熱い山への愛着の情が籠つてゐるのである。(昭和十年五月五日稿)

新著紹介

○日本近世饑饉志

小野武夫著 學藝社發行
定價三圓八十錢

近世の飢饉としては關西では寛永、享保、東北では元祿、寶曆、天明、天保の数度にわたる中にも寶曆と天明と天保とが最も激烈であつた、本書は天保七年渡邊華山が京都三條にたてた救小屋の圖をはじめ、寶永飢民錄、自然未聞記、天明年度凶歲日記、凶年記情、凶年藏主稿、天明三年太田庄騷動記、天保年中已荒子孫傳、救饑製食方集書、救荒孫之杖、

飢饉之節困窮人手當末仕法帳、農家心得訓及饑饉通考の十二篇を集めたものであるが、天明年度凶歲日記のごときは、いかに飢民が常規を失うかを告ぐるの惨狀録ともいふべく、涙なくしては讀むことが出来ない、備荒貯蓄の必要もあることではあるが、飢饉の人心に影響する所は獨り生命のみの問題ではない、識者の注意を要する所であると信じる。(藤田)

○康徳二年版滿洲國現勢

滿洲國通信社 定價二圓五十錢

昭和十年三月一日發行の滿洲國現勢は菊倍版四七二頁の尠大な形で出版された、寫眞も鮮明であり記事も豊富である、めまぐるしく發達してゆく滿洲を理解せんとする人士に一讀をすゝめる。(藤田)

○風害を被つた京都の風致

京都府土木部

都市計畫京都地方委員會は昨秋の風害をうけた社寺名勝七十四圖版のコロタイプ版を出版し且つ風害地圖と損傷概況とを合せて本報告書を頒つた、我等はこの圖版によつて、災害の恐るべき結果を永久に記念しうるのを喜ぶ。(藤田)

○郷土本位地理學論叢

愛知縣地理學會 定價八十錢

名古屋の岡田君、夏目君、耕崎君などを中心として地理學會が昭和三年二月に創立されてから八星霜、會員諸君の涙ぐましい努力の結晶としてこのたび菊版一三二頁の論叢が世に出た、集むる所は日本の古尺と土地(藤田)、滿洲國に於ける

蒙古、名古屋の商園(岡田)、幡豆郡の人口分布(久田)、神野新田を中心とした養蠶地帯(栗原)、小栗海道(服部)、櫻井貝塚附近(三井)瀬戸地方の硝子粉工業(宮地)、地理學的心境の變遷(耕崎)、地理學習の準備と郷土地理(平山)、小學校に於ける地理科の理法探究(富田)、校外指導の一例(中村)、地理教授に對する私見(橋本)の十四篇があり、最後に沿革や事業の報告がある、すべて同人の熱心な研究的態度を多とすべきであらう。(藤田)

雜 報

○世界石油業の現勢

一九三四年の世界石油界は一九二九年以來の大好況であつたが、就中米國は需要額最高記録に達し九十六萬バレルの記録をしめしたが、その供給は九十四萬バレルであつたからストックは近年になく減少した。

イラーク 一九三四年にイラーク輸送管が新設されトリポリ線は五三一哩、ハイファ線はこれより八七哩長く夫々一日四〇、〇〇〇バレルの石油を輸送しうる。

ルーマニア では近年生産過剰で、政府が制限を加へたから産出は十分でなかつた、この國の産油の八〇%は海外に輸出される、その収入はこの國の海外支拂決済となるのだからイラークの供給増加はこの國の石油界に影響をするであらう。

日本及滿洲 日本は一九三四年六月一日から輸入原油及精

油を管理しはじめた、滿洲では石油專賣法を實施した。

バーレン島 波斯灣のバーレン島からの積荷は一九三四年十月加州スタンダード石油會社へ到着した、同會社は全島の租借權を獲得し、一九三四年初頭、工場建設をはじめた、但し同島附近のアラビヤ本土の分は英國資本が獲得した。

佛國 一九三四年中佛國最大の精油工場が出来一日一萬八千バレルの能力がある、このために原油の輸入増加と精油の輸入減退となつた、これはイラークの原油の輸出増加に呼應するのである。

トリニダット は全英帝國領土中最大の産油地であるから英帝國へ生産石油に對する關稅上の優先權を賦與せんとしてゐる。

メキシコ 一九三四年より政府監督の石油會社が營業をはじめたが、その株は殆ど政府の手にある。

イタリーにも政府管理の石油會社がある、同國一日平均ガソリン需要量は一萬バレル、これに軍艦や商船を加へて、全精油需用、一日三萬バレル。

ドイツ は一九二四年、四十四萬五千バレルしか生産しなかつたがノインハーゲン地方で新式採油をやつたから一九三四年には二百三十萬バレルに躍進した。

ロシア 一九三四年は同國石油産出の最高記録をしめし一億六千九百萬バレル、前年よりも二・六%を増進した。一九三五年以後深掘にして三〇%の増加を企てゝゐる、但しもし